

蒲生干潟の植物②

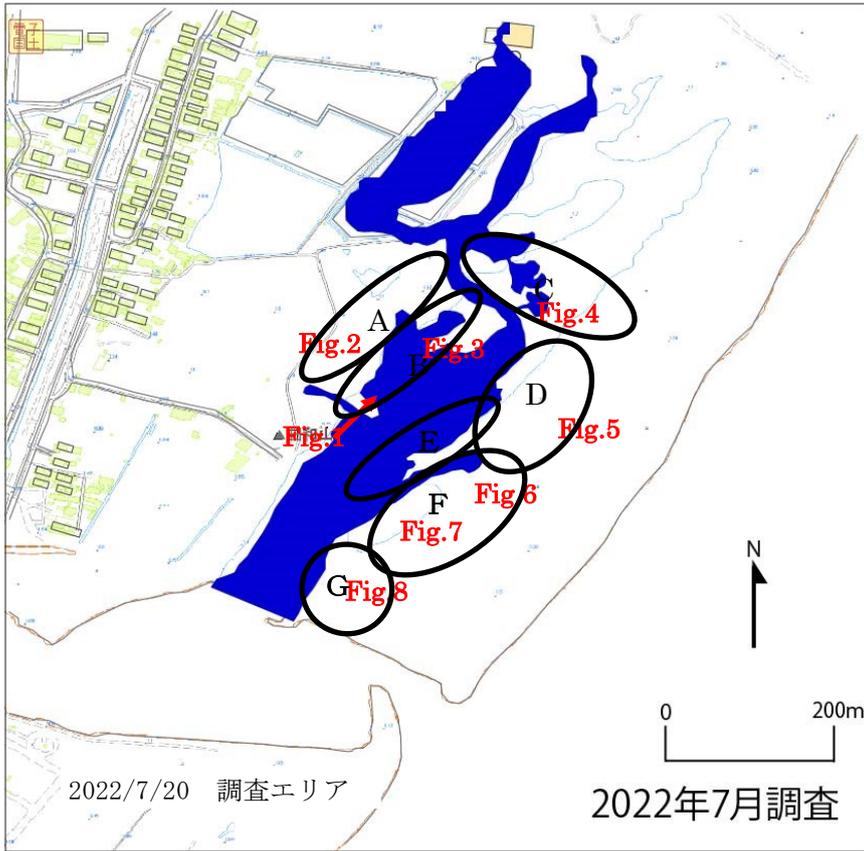
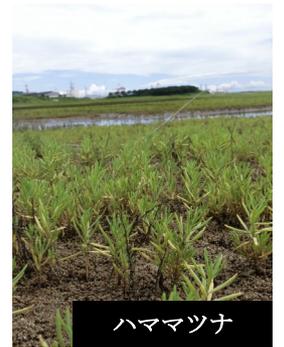


Fig.1 エリアBを南西側から撮影



ヨシ

Fig.2 エリアAで撮影



ハママツナ

Fig.3 エリアBで撮影



Fig.4 エリアCで撮影



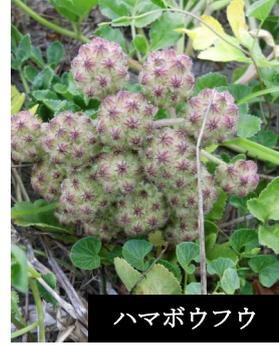
ケカモノハシ

Fig.5 エリアDで撮影



コウボウムギ

Fig.6 エリアFで撮影



ハマボウフウ

Fig.7 エリアFで撮影



Fig.8 エリアGで撮影

調査日時：2022年7月20日（水）9:50～11:20，天気：くもり

定点観測では、ハママツナで一面緑色になっているのがわかる。大雨の影響もあり、浸水しているエリアでは、ハママツナが流失している部分もあった（Fig.1）。エリアAに広がるヨシは150cmほどに成長しており、伸長するペースが衰えることなく成長している。穂はまだ見られない（Fig.2）。エリアBのハママツナは7cmほどになり、均一に広がっている。場所によっては、大きく成長した株も見られた（Fig.3）。エリアCで見られていたシオクグの穂はすっかりなくなっており、ヨシの成長が目立つようになった。潟湖に沿って点在していたヨシの面積が広がりつつある（Fig.4）。エリアD、Fの広範囲に、ケカモノハシが群生していた。これまでハマニンニクがよく目立っていたが、葉が多くなりケカモノハシの群落が目立つようになった（Fig.5）。コウボウムギの穂はすっかり茶色になり、種がこぼれ始めていた。コウボウシバの穂はほとんど見られなくなっていた（Fig.6）。エリアD、F、Gに散生していたハマボウフウは、白い花が終わり、赤紫色の果実ができていた。果実の部分が重くなり垂れ下がっているのがほとんどであった（Fig.7）。エリアGの南側は、昨年オニハマダイコンが群生していたが、今年は、1本も見られず、ヒメムカシヨモギのような植物とメマツヨイグサが占めていた。

（宮崎佳彦）